

～毎日がアメリカなストリートづくり事業～

米海軍横須賀基地の隣にあることから「アメリカに最も近い商店街」を強く意識して英会話教室やステージイベントを頻繁に開催。バザールの実施や情報誌の発行と相俟って「アメリカなストリート」のイメージが強化された。事業後に空き店舗が埋まって会員の意識や結束力も高まり、取組みを本格化させるため、任意組織から振興組合へ法人化した。

所在地：神奈川県横須賀市本町2-7  
 TEL・FAX：046-824-4917  
 URL：<http://dobuita-st.com/>  
 組合員数：95名  
 商店街の類型：地域型商店街

商店街の概要と事業を実施した背景

京急汐入駅に近接し、国道16号と平行して並ぶ300mの街区を有する商店街。明治時代以降、日本海軍の軍港街として栄えた地域で、道の中央に流れるドブ川に厚い鉄板でフタをしていたことから、通称「どぶ板通り商店街」と呼ばれている。戦後は在日米軍向けに店舗を構えて栄えた。近年ではミリタリーショップなどが日本の若者に人気だが、知名度の割に集客が十分ではなかった。このため今回の事業では、来街者にアメリカらしさを感じてもらえるイベントを日常的に実施することにより、観光客が立ち寄りたくなる魅力的な商店街づくりを目指した。

実施した事業の概要

①英会話教室「どぶ板で英会話」（平成25年7月～平成26年1月）

外国人と気軽に会話できる無料の英会話教室を行った。「英会話希望者は2時に集合！」と呼びかける看板を設置し、当日でも気軽に参加できる雰囲気作りに努めた。毎週末の土日に継続的に開催したところ、日米交流を楽しめる場所として人気になった。

②ステージイベント（平成25年7月～12月）

毎週末と祝祭日に、イベント広場でカントリーミュージックの演奏会やダンスステージなどを催し、「いつ来ても何かをしている賑やかな商店街」を印象づけた。

③どぶ板バザール（平成25年7月27日～28日、11月2日～4日）

- 1) スワップミート(蚤の市) & 各ショップセールイベント
- 2) ヨコスカ海と大地の夏フェス  
三浦半島の漁師、農家、料理人が一堂に会し、食の宝を提供した。
- 3) ドブ板屋台村&ストリートパフォーマンス  
琉球舞踏、ハワイアンフラなどのステージを繰り広げた。  
いずれも米ドル紙幣で買い物ができると好評だった。

④情報誌「ドブ板タイムス」の発行

タブロイド紙の装丁を意識した「DOBUITA TIMES」を8回発行・配布し、会員店舗での販売商品にfocusした記事を掲載するとともに、イベントの情報も発信した。



成果と成功の要因



英会話教室とイベント広場でのステージは、毎週末に継続開催したことでメディアに取り上げられ、土日は飲食店を中心に行列ができるようになった。120回目を迎えた「どぶ板バザール」では「DOBUITAミリメシよこすか海軍カレー缶詰」などのオリジナルグッズを発表したり、地域の食を提供するなどの新企画が話題になり、各回で4,000人以上を集客した。今回のイベントが若手起業家の出店意欲を刺激し、実施前に3店舗あった空き店舗が解消された。この効果により、商店街内部の意識改革もなされ、各店舗が経営革新に向けて努力をする意識が醸成された。

この取組みが評価され、第2回 かながわ商店街大賞(商連かながわ主催)を受賞した。

今後の取組み

商店街では、今回の事業を通じて会員の意識や結束力が高まったことから、今後、「ドブイタ」ブランドの強化とともに、買い物環境の整備をさらに進めるため、商店会組織を「ドブ板通り商店街振興組合」として法人化した。「どぶ板バザール」は、現在も若手経営者(平均年齢35歳)が中心になって企画・実施されている。今後も、イベント広場を利用したフードコートやオリジナルグッズの商品化など、多彩な事業を次々と積極的に展開していく予定である。